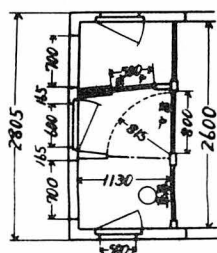
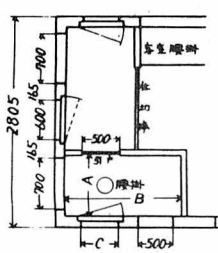


2. 貫通できる全室形



3. 半室形運転室



る。

3 半室形(図-3)運転室の奥行を長くして、仕切りを車室幅の約 $\frac{1}{3}$ のところにもうけたもの。車掌が使用する場合には仕切率によって客室との仕切りとする。

4 全室形(中・長距離電車用)(図-4) 流線形または半流線形の車の運転室で床面積が大きい。助手用腰掛・指導員用腰掛等の設備がある。

運転室内には電車の例をあげるおとぎのような機器類が設備されている。

1 運転士のための機器 主幹制御器・ブレーキ弁・合図用ブザーおよび押ボタン・電話器・速度計・空気圧力計・窓ふき器・日よけ・その他各種表示灯・スイッチ類。

2 車掌のための機器 合図用ブザーおよび押ボタン・電話器・車掌スイッチ・電灯点滅用スイッチ等。

3 主として車掌があつかうが保安のための機器 車掌弁・ブレーキスイッチ・手ブレーキ・消火器・その他各種表示灯・スイッチ類。(内村守男)

うんてんせいい 運転指令 (英) order of train operation

列車運転に関する業務命令。国鉄では総裁達示または鉄道管理局長達示によって命令される。また日常の列車運転に関する命令は鉄道管理局の列車指令員、電車・機関車指令員によって、鉄道管理局長の名において電報または電話によって命令されるのである。なお狭義には列車指令員のことを略して運転指令という場合もある。(山岸勘六)

うんてんせいせき 運転成績 広義においては列車運転成績・各種車両の使用成績・乗務員仕業成績および運転事故成績等をも包含する運転関係業務成績を総称するが、通称する運転成績は各種車両の運転キロならびにこれが運転に使用した燃料・油脂または電力等の消費成績をいい、いわゆる運転統計の根幹をなすものであり、この調査対象にはつぎのものがある。

1 機関車運転成績 蒸気・電気・ディーゼル等の各種機関車について機関区別・機関車形式別・機関車仕業別・線別・列車種別等に、機関車キロ・換算車両キロ・これら運転に使用した石炭・流動燃料および電力の消費量を調査したもの。鉄道事業費中の最大物件費として重要な部門を占める石炭費の消長に関する調査資料として各面から利用されるほか、電化・気動車化等の得失を検討する場合における経済比較には第一義的に採り上げられる統計資料で、平均牽引(けんいん)換算両数・機関車1キロ当りおよび換算車両100キロ当りの石炭消費量、電力消費量等は消費成績調査の目安である。

2 電車運転成績 電車列車キロ・電車キロ(電動車・付随車別)および換算電車キロの内容を有する運転キロと、これに

伴なう電力量の消費成績を電車区別・線別に調査したもの。平均連結両数は列車単位の大小を示し、列車1キロ当りおよび換算電車100キロ当り電力量の消費割合とともに、電車運転業績審査および諸計画の資料となる。

3 ディーゼル動車運転成績 気動車区別(または機関区別)・形式別・線別に動車列車キロ・動車キロ・換算動車キロならびにその燃料使用量を内容とする。

4 管内運転成績 1~3項は鉄道管理局所属の各機関区・電車区ならびに気動車区に配置された動力車につき調査され、他局に乗出した作業も含めた成績であるが、管内運転成績は各鉄道管理局の所管区域内で運転された総量を示し、運転キロ・燃料・電力を定期・不定期・臨時別に分類調査するもので、その利用目的は列車運行所定キロとの対照、人・トンキロ・総収入との相関等、各局管内業績審査の基礎数値となる。

以上の諸運転成績のほか各種動力車別に燃料油脂の使用量を機関区別に運転用・点保火用・機関区用・客貨車用の用途別に、また炭種の面から品名別・炭田別・塊切粉別に、石炭実数量・石炭換算量・総発熱量を調査した石炭炭種別使用成績および暖房車用・予熱用ならびに修繕掃除用等客貨車区で使用する客貨車用燃料成績を調査したものがある。(一条幸夫)

うんてんせいび 運転整備 機関車・気動車・暖房車・雪かき車などにおいて運転に必要な諸条件を具備し、重量の配分を適当に調整した場合の状態。運転に必要な諸条件とはたとえば蒸気機関車では乗務員が乗務し、燃料・水・砂および道具類などを積載することである。

運転整備の状態における車両の総重量を運転整備重量といい車両設計上重要な要素である。国鉄では蒸気機関車の場合つぎの状態における重量をいう。

1 ボイラ内の水位は使用圧において火室天井(てんじょう)板最高部上150mm(標準)とする。

2 火格子(こうし)上の燃料の重量ならびに灰箱内の灰の重量は火格子1m²につき200kgを標準とする。

3 煙室には5kg以上のシンダを有しないものとする。

4 砂箱には砂を満載するものとする。ただし砂の重量は1m³につき1,500kgを標準とする。

5 水タンクには水を満載し、燃料庫には指定量の燃料を積載するものとする。

6 乗務員は通常2人とし1人当りの重量は70kgを標準とする。

7 必要な道具類は全部積載するものとする。(高桑五六)

うんてんせいり 運転整理 列車の運転時刻は平常の輸送要請、乗客の多少、出貨事情を標準として定めてあるので、異常に客貨が殺到したり天候状態が悪化して、暴風雨雪または事故が発生した場合などには、所定の運転時刻どおりに運転することが困難となって、列車が遅延するか運転不能となることがある。しかし鉄道の客貨輸送計画は列車が定められた運転時刻どおりに運行して、始めてその目的が達成されるものであるから、列車運行が混乱すると鉄道の経営目的が阻害されるばかりでなく、利用者に多大の迷惑をおよぼすことになる。そこで列車運行をつとめて正常な状態に保持するために、遅延した列車が他の列車に影響をおよぼすのをできるだけ少なくしながら、遅延を回復させることが必要になってくる。このように列車の正常運行を保持するために行う運行管理の業務を運転整理という。

運転整理は列車運行の混乱した場合に列車の種別・使命・行先・前途の接続・線路の状態など考えあわせて、優先運転順序の決定・行違駅の変更・一時的時刻変更等を行って遅延の回復